

ドキドキわくわく あたらしい本 えほん

2023.2

おおきなおさら

あさのますみ 作 イシヤマアスサ 絵
パイインターナショナル

ルウさんには、たいせつにしている
おおきなおさらがあります。それ
は、ムーさんからのおくりもので、た
からものです。おりょうりじょうずな
ルウさんは、おおきなおさらにまい
にちかぞくのためのごちそうをつくり
ました。

ところが、あるひムーさんがびよ
うきでねこんでしまいました。

ネズミなんびきでゾウになる？

—^{さんすう}算数^{かず}がわかる^し数のえほん

だれもが知りたい^{きょだい}巨大な数のおはなし—
トレイシー・ターナー 文 アーロン・カシュリー イラスト
クジャータン・ボスキット 数のおはなし 竹内薫 訳・監修
小学館

^{ほんもの}本物のゾウはどれくらい大きい^{おお}の
か、想像^{そうぞう}できますか？

この本では高^{ほん}さや深^{たか}さ、広^{ふか}さなど
の大き^{ひろ}さを、身近^{みぢか}なものと比^{くら}べて紹^{しょう}
介^{かい}しています。

キリンを使^{つか}って高^{はか}さを測^{はか}ってみた
り、キンギョで重^{おも}さを測^{はか}ってみたり。

さあ、ネズミなんびきでゾウになる
のか読^よんでたしかめてみよう！

低学年

それで、いい！

礪^礪みゆき 作 はたこうしろう 絵
ポプラ社

えをかくことがだいすきなきつねは、て
んらんかいにえをだすことにしました。

みんながおどろくような「すごいもの」を
かこうとがんばります。でもかけばかくほ
ど、みんなにどうおもわれるかしんぱいにな
り、なかなかいいえがかけないうちに、
とうとうえのかきかたがわからなくなって
しまいました。

そんなとき、ともだちのうさぎがたいせ
つなことにきづかせてくれます。

そのままのじぶんでいて、とつたえてく
れる、こころあたたまるおはなしです。

オハヨウどろぼう

おのりえん 文・絵
理論社

オハヨウどろぼうは、「おはよう」という
“ことば”をぬすみます。あるひ、しんち
ゃんの「おはよう」がぬすまれました。お
じいちゃんは「おはようをとられたら、すっ
ぱりあきらめるか、とりかえし^いに行くか。」
しんちゃんは、「もちろんとりかえしに行く
さ！」と、こたえました。

そこで、おじいちゃんとしんちゃんは、
「おはよう」をさがしにでかけました。「お
はよう」をとりかえすことができるのでしょ
うか。

ツクルとひみつの改造ボット

辻貴司 作 TAKA 絵
岩崎書店

ツクルは、じぶんが住んでいる町に、なぞのエンジニアがいて、キカイをしゃべれるように改造しているというおかしなうわさを耳にする。

そのエンジニアに興味をもったツクルは、改造されたキカイに改造ボットと名前をつけ、情報屋を気どっているトミーから、「改造ボットには、目にさかさまシールがはってあるらしい」、「電話か自転車」という情報をもらい、改造ボットをさがしにでかける。

とりあえず町の電話ボックスをしらべはじめたツクルの目の前を、ピンクの自転車がすごいスピードで走り去る。これは改造ボットか？
改造ボットに出会った子どもたちのお話。

カステラアパートのざらめさん

島村木綿子 作 コマツシンヤ 絵
Gakken

拾った子ねこを飼うために、四年生のこのみとお母さんは、ペット可のアパートに引っこすことにしました。そこは、クリーム色のかべ、こげ茶色の平らな屋根のまるでカステラみたいな見た目のアパートでした。大家さんの「ざらめさん」は、水の生き物ととっても仲良しな、ひとりごとが多い、ちょっと変わったおばあさんです。

ある日、このみは、近所に大きなクスノキとそら豆みたいな形の池を見つけました。池のほとりにはざらめさんがいて、だれかに話しかけている声がします。（今日も、ひとりごと？）と思ったこのみは、みきのかげからそつとのぞいてみました。

高学年以上

金色の約束

松本聡美 作 黒須高嶺 絵
国土社

小さいころ、智彦とおれは仲がよくて、駄菓子も売っている竹細工の店、あずま屋へもしょつちゅう行っていた。でも五年生になった今では、学校の廊下で会っても知らんふりだ。

そんな二人に、大きなバッグをのこして、あずま屋のじいちゃんは、てんごくへ行ってしまった。バッグの中から出てきたのは、手書きの地図と砂金採りグッズ一式だった！

じいちゃんは砂金採りの名人だったんだ。おれは智彦をさそって、地図をたよりに砂金採りに行くことにした。じいちゃんが二人が五年生になったら一緒に行こうと言っていた砂金採り。

二人は砂金を見つけられるだろうか。

ほうかんちょう

奉還町ラフソディ

村中李衣 作 石川えりこ 絵
BL 出版

山口県から岡山県に引っこしてきたぼくは、奉還町商店街のおまんじゅう屋さんの息子、あつしと仲良くなった。

あつしの話によると、江戸時代の終わりに「大政奉還」っていうのがあって、殿様が「もう武士の時代は終わりにするよ。このお金で仕事を始めてね」と、配ったお金でこの商店街が始まったという歴史があるそう。ここには毎朝おっかない顔で店の前につたっている「べにや」のおっちゃんや、色々な動物をつかいこなす「いのうえ理容店」のいのうえさんなど、個性的なお年寄りばかり。そんな奉還町商店街の人達とぼくとの物語。